

## 日本経済学史

東京大学経済学部図書室

この欄は、明治以降の経済・産業の発展、現状を経済学の立場から研究しようとする場合に参照すべき参考文献を主題別に収載し、これに若干の解説を加えたものである。

第1回は、経済学説史をテーマにとりあげたが、次回以降経済史、経済地理、農・林・水産業、鉱・工業、商業・中小企業、金融・財政、外国貿易、人口・労働力、労働運動・社会運動・社会主義、経営・会計、統計等々の主題別に協議会加盟機関が分担・執筆し、順次掲載してゆく予定である。

それぞれの主題の対象範囲の限定は甚だ困難な問題をかかえており、ここに全体の詳細なプランを提示することはできない。とりあえず各主題毎に自己の分担範囲を明記し、重複・脱落をできるだけさけるように努力したい。

とりあげる参考図書としては、書誌・目録・索引・抄録、文献案内・研究案内、辞典・事典・ハンドブック、年表、要覧・名簿、年鑑・ダイレクトリー、資料集、逐次刊行物等のいわゆる一般的参考図書の他、調査・研究機関等の情報センターや、主題によっては、研究史、通史・概説書、個人全集・伝記等をも含む予定である。

記載の順序・形式はできるだけ統一するように努めるが、主題によっては必ずしも一般的原则にはいらないものでもでてくると考えられる。例えば、今回の「日本経済学史」はそのよい事例であろう。

このような試みは、はじめてであり、十分な自信もないが、各分野専門研究者および大学・研究機関、図書館等の利用者各位の御協力を得て、できるだけよいものにしたいと願っている。忌憚ないご批判をいただければ幸いである。

### は し が き

近代日本経済研究のためのレファレンス・ブックスの第1回として日本経済学史を担当するに際して編集上、次のような点に留意をした。

1) 経済学史を単なるアカデミックな経済学の歴史よりも広く解釈して、時の経済政策の担当者や実業家の思想をも含む経済思想史としてとらえるようにつとめた。

2) 限界効用学派以降のいわゆる近代経済学の理論については、このシリーズの経済理論の項で改めてとりあげることにしたので、ここでは省略した。また経済学の個々の分野、例えば農業経済学は農業の項で、財政学は財政の項でとりあげる予定である。同様に社会主義・社会思想も割愛した。

3) このシリーズの他の部門と異り、ここでは経済学史という主題の性質上、一般的な

2 次文献・参考図書の解説にもちいられる分類方法は採用できなかった。

- 4) 全体を、Ⅰ一般的書誌、Ⅱ資料集、Ⅲ通史、Ⅳ全集・伝記・年譜・著作目録、Ⅴ外国経済学輸入史、Ⅵ日本資本主義論争、Ⅶ大学学部史、の7部に分類した。

一般的な書誌・目録・大学図書館史等の類は、このシリーズの総論編にゆずり、ここでは省略した。

短時日の間に調査したので脱落や誤りが多いと思う。利用者のご指摘をいただき、後日、このシリーズを単行書としてまとめる際は完全なものにしてゆきたいと考えている。

## I 一般的書誌

法政大学近代史研究会編：自由民権関係文献目録(資料・著書之部)，同会 昭和33

この目録は明治初年から昭和33年に至る自由民権に直接関係ある文献だけでなく、編者が時代的背景を考察するために必要と認めた文献も広く採録され、書名の順に並べてある。附録として、明治文化全集26，明治前期財政経済史料集成21，明治工業史10，新聞集成明治編年史15などの総目次を附している。

細川嘉六監修：日本社会主義文献解説——明治維新から太平洋戦争まで——大月書店 昭和33

明治初年から太平洋戦争に至る間の社会労働関係の文献を取り上げ、解説を付している。巻末には、社会主義文献略年表がある。

以上の2冊は日本の経済学発達背景になった思想を知る上に重要な文献目録であ

る。

明治大正昭和経済文化展覧会 東洋経済新報社主催(紀元二千六百年記念)

昭和15

昭和15年に開催された幕末から昭和15年に至る文化・社会・経済関係の展覧会の目録である。収録されているのは錦絵・地図・版画目録・陳列文献目録・図表目録である。文献目録は明治元年より昭和15年迄の経済学の書物を中心に編集している(p. 23～85)。

三橋猛雄編：家蔵明治前期思想史文献目録(草稿)，同氏 昭和34

三橋氏個人が書店経営のかたわら、収集した幕末から明治中期に至る思想関係のコレクションを昭和34年に「明治古書会」の主催で開かれた展覧会に出品したものの目録である。慶応元年より明治22年迄、年代順に編集してある。

太田重弘編：東京大学経済学部所蔵・明治文献目録——経済学とその周辺——東京大学経済学部 昭和43

東大経済学部が所蔵する蔵書の中から、明治初年より日露戦争頃迄に刊行された社会科学(社会主義小説を含む)書を選んで編成した目録である。主題別に分類しており、書名の索引がある。

松尾勇四郎編：経済学財政学研究参考書目録 明治37

尾形裕康：明治の翻訳社会科学書——前半期を中心として——社会科学討究5(2)，p. 1～45(昭和35)

思想の科学編集部：戦後社会科学重要文献年表——経済学・社会学・政治学を中心に——；思想の科学(40)，p. 58～

## II 資料集

吉野作造編：明治文化全集，日本評論社  
吉野作造，尾佐竹猛，石井研堂，宮武外骨の諸氏が，大正13年におこした明治文化研究会によって編纂されたもので，一名明治の「群書類従」と称されている。最初全24巻として昭和3年に刊行され，戦後はその特殊事情から軍事篇・皇室篇等を除いて復刊された。現在，再復刊が28巻別巻3として，同じ日本評論社の手で進められている。

本稿に関係あるものいくつかを新版より取り上げてみると，第2巻 自由民権篇，第3巻 政治篇。第5巻 雑誌篇，この巻末には明治雑誌年表（廃性外骨）があり，明治元年より明治22年に至る間に刊行された約800種余りを年代順に列記して，簡単なコメントを附している。第6巻 社会篇，附録に社会文献年表（下出準吉）がある。第12巻 経済篇，巻末に経済文献年表（三橋猛雄）がある。この書目年表は慶応2年より明治30年迄の経済学を中心に，財政学，統計学及び産業事情書を掲げて簡単な注記を附してある。第14巻 自由民権（続）篇，第15巻 社会篇（続）。第23巻 思想篇，この巻には思想文献年表（海後宗臣）があり，明治元年より23年迄の思想に関する文献の出版史となっている。

現代日本思想大系 全35巻，筑摩書房  
昭和41～43

これは幕末から現代に至る社会思想関係の重要な文献のアンソロジーである。各巻には年表及び著作目録等がある。本稿に関係あるものを紹介すると，  
第1巻 近代思想の萌芽

死刑論（津田真道）  
拷問論（津田真道）  
真政大意草稿（加藤弘之）  
百一新論（西 周）

第2巻 福沢諭吉

第3巻 実業の思想

解説 実業の思想（長 幸男）

青淵百話（抄）（渋沢栄一）

実業家としての中上川彦次郎先生（鈴木梅四郎）

実業読本（武藤山治）

偉大なる財界人（大内兵衛）

資本主義工業と科学主義工業（大河内正敏）

私の行き方考え方（松下幸之助）

企業デモクラシー（後藤安太郎）

唯物史観の批判（深井英五）

軍備縮少しは財界を良化すべし（石橋湛山）

第15巻 社会主義

第19巻 河上 肇

巻末には，参考文献及び河上肇年譜がある。

第20巻 マルクシズム I

内容は資本主義論争を中心とした諸論文が収録され，松島栄一氏の解説がある。巻末には著作，参考文献（p. 435～440），マルキシズム関係略年表（p. 441～449）がある。

第29巻 柳田国男

これには「日本農民史」が収録されており，巻末には著作・参考文献，柳田国男年譜がある。

## III 通史

大塚金之助：経済思想史（要領）日本資本主義発達史講座，岩波書店 昭和6～7

論文というより一種のサブノートで、その後の日本経済学史研究の先駆となった注目すべき著作である。

住谷悦治：日本経済学史の一齣——社会政策学会を中心として——大畑書 昭和9

——：——増訂版，日本評論社 昭和23

住谷悦治：日本経済学史，ミネルヴァ書房 昭和33

——：——増訂版，ミネルヴァ書房 昭和42

両者とも幕末より第一次世界大戦頃迄を扱っている。後者は文久元年から大正7年迄の経済書の刊行年表を附している。

塚谷晃弘：近代日本経済思想史研究，弘文堂刊 昭和35

内容は次の通りである。

- (1) 幕末の近代思想
- (2) 日本における自由主義経済思想の成立
- (3) 神田孝平の明治経済思想上の地位
- (4) 明治初期自由主義の限界——諭吉と卯吉の場合
- (5) 福沢諭吉とキリスト教
- (6) 明治における歴史派経済思想の系譜
- (7) 明治三十年代における社会主義とキリスト教

加田哲二：明治初期社会思想の研究，春秋社 昭和8

特に一章をもうけて明治初期の経済学者（福沢諭吉，神田孝平，加藤弘之，田口卯吉，中江兆民，佐田介石，樽井藤吉，大島貞益，佐久間貞一）を論じている。

——：明治初期社会経済思想史，岩波書店 昭和12

著者の主著であって全体の編別構成は次の通りである。

序 編 研究方法及び概観

第1編 明治社会経済思想の前夜

第2編 明治社会経済思想の解明

第3編 自由主義の批判

第4編 自由民権の政治及び経済論

第5編 国民主義経済論

第6編 社会問題の認識

全体を通して明治30年前後迄を扱っている。なお，第7編は明治初期社会経済思想文献大要（p. 875～916）があり，717点の文献を，ほぼ本文の編別構成に従って分類し，重要な全集，単行書には解題を附してある。

堀 経夫：明治経済学史——自由主義・保護主義を中心として——，弘文堂 昭和10

——：日本経済学史Ⅰ～Ⅱ（新経済学全集第6巻 経済学発達史（下），日本評論社 昭和19

明治20年迄を扱う。

——：新修明治経済学史（上），高島屋出版部 昭和23  
前書の改訂版。

本庄栄治郎：日本の経済学，日本評論新社 昭和32

——：日本経済思想史概説，有斐閣 昭和21

——：日本経済思想史，有斐閣 昭和33

明治以降の経済思想，即ち開化思想と保守思想，自由主義と保護主義思想，社会思想と社会政策思想，民主主義思想と国家主義思想を論じている。

——：日本経済思想史 上・下巻，日本評論社 昭和41

本書は、前三著作集を大成したものである。

明治以降の内容については、

<上巻>

第3部 維新後についての研究

第1章 西洋経済学の伝来

第2章 明六社について

第3章 御雇外国人とわが経済学

第4章 維新後の開化思想

第5章 自由保護に関する三雑誌

第6章 欧米人の日本研究とわが経済学

第7章 わが国雑誌の発展

<下巻>

第2部 維新後の経済学者

第1章 佐田介石の研究

第2章 大島貞益の研究

第3章 岡田好樹の「経済之理」について

第4章 山本寛馬とその経済思想

第5章 前田正名の「所見」について

関 恒義：日本のブルジョア経済学の系譜とその批判(上・下)；経済(54)，p. 141～156；(56)，p. 141～161(10；12，昭和43)

明治初期より、1960年代初頭迄の近代経済学の流れを日本資本主義の発達過程に即して批判的に跡づけた論文。主要な著書、翻訳書の詳しいリストも掲げてある。

創立百年を記念して刊行された、もの。

慶応義塾大学経済学会編：日本における経済学の百年(上、下巻)，日本評論新社 昭和34

経済学の個々の分野と、方法論による学問別の双方から、学説史、研究史の百年を概観するユニークな書物である。

上巻

日本経済史研究の変遷—野村兼太郎

西洋経済史—高村象平

日本経済思想の研究史—徳川時代経済思想を中心として—島崎隆夫

わが国における社会主義とマルクスズム

—その史的考察—平井 新 白井 厚

野地洋行

経済政策方法論—気賀健三，加藤 寛，

富田重夫

植民政策・世界経済論・国際経済学—

山本 登，矢内原 勝

価値論研究史—遊部久蔵

理論経済学—鈴木諒一

下巻

昭和年代始期における財政学説の転換過程—現代財政学の前提段階の回顧と若干の疑問の提出—高木寿一

農業経済論—日本資本主義における小農論の展開—小池基之，常盤政治，平野 純子，高山隆三

日本中小企業問題研究史—伊東俊吉，尾城太郎丸，北原 勇，佐藤芳雄

社会政策—藤林敬三，中鉢正美，黒川 俊雄，井村喜代子，飯田 鼎

経営学・会計学の発達—小高泰雄，森

五郎，小島三郎，野口 祐，関口

操，会田義雄，和田木松太郎，石

坂 巖

商業学の発達—鈴木保良，片岡一郎，村田昭治

個人別に記述された啓蒙的書物としては次のようなものがある。

本庄栄治郎：江戸明治時代の経済学者，至文堂 昭和37

明治初期の佐田介石，若山儀一，神田孝平，佐久間貞一，福沢諭吉，津田真道，加

藤祐一，田口卯吉，大島貞益，前田正名と  
いった人々が論じられている。巻末には明  
治以降の日本経済思想史研究の回顧が行な  
われている。又，初学者向けの詳しい参考  
文献もある。

土屋喬雄：日本の経済学者，日本評論社  
昭和16

加田哲二：経済学者の話，財政経済時報  
社 昭和14

土屋喬雄のものは明治期の人物では神田  
孝平，福沢諭吉，若山儀一，田口卯吉を扱  
う。一方，加田氏のものは福沢諭吉，神田  
孝平，加藤弘之，田口卯吉，中江兆民，佐  
田介石，樽井藤吉，大島貞益，佐久間貞一，  
福田徳三を扱う。

日本経済学史上の諸学派の立ち上った研  
究論文は，それぞれ書誌としても役に立  
つ。歴史学派に関する以下の論文はその例  
である。

塚谷博道：明治における「歴史派」経済  
思想の源流；政経論叢（国学院大）8  
（3），p.1～37（昭和35）

西村茂樹，若山儀一，大島貞益，前田正  
名を論じている。

小林漢二：独占化過程における日本歴史  
学派経済学 の発展——ブルジョア的  
「社会政策」論の確立過程；経済学（東  
北大）77，p.16～243（2，昭和41）

市原亮平：日本社会政策と人口政策の一  
交渉——プロシヤ型日本社会政策の諸  
論点をめぐって——経済論集（関大）  
6（1），p.24～59（昭和31）

——：日本社会学派と社会政策学派  
——日本人口論史（続）——；経済論  
集（関大）6（5），p.21～49（昭和31）

——：日本社会政策学派の人口論と

その分化——続日本人口論史——（1～  
2）；経済論集（関大）7（1），p.15～  
55；7（2），p.26～89（4～5月，昭和  
32）

マルクス経済学史

松島榮一：日本に於けるマルキシズムの  
展開，筑摩書房 現代日本思想史大系  
20 マルキシズム I p.7～72.

戦前までの日本におけるマルクス研究史  
の簡単なデッサン。特に資本主義論争に力  
点を置いている。その他，概論的なものと  
しては次のようなものがある。

小山弘健：日本マルクス主義史，青木書  
店 昭和31（青木新書）

守屋典郎：日本マルクス主義理論の形成  
と発展，青木書店 昭和42

小山弘健編：日本マルクス主義史概説，  
芳賀書店 昭和42

最後の書物は，巻末に日本マルクス主義  
史文献解説（p.387～412）と革命戦略論争  
の系譜図があり便利である。

山辺健太郎：日本のマルクス主義——そ  
の発展の歴史と文献——；思想（385），  
p.75～101（7，昭和31）

文献解説の形で明治から大正・昭和を経  
て戦後に及ぶ日本のマルクス主義の歴史を  
述べたもの。

日高 普編：日本のマルクス経済学——  
その歴史と論理——（上・下），青木書  
店昭和42

ここで取り上げられている人物は，堺利  
彦，山川均，福本和夫，河上肇，野呂栄太  
郎，猪俣津南雄，楠田民蔵，山田盛太郎，  
向坂逸郎，宇野弘蔵である。

畑 孝一：日本マルクス主義経済学小

史；越村信三郎，石原忠男，古沢友吉編：資本論の展開——批判，反批判の系譜 同文館 昭和42 p.319～345.

しまね・きよし：日本のマルクス主義年表；思想の科学 (38)，p.83～88；(44)，p.108～113；(50)，p.107～112；(67)，p.58～66 (昭和40～42)

昭和3年より30年迄のマルクス主義関係の図書と雑誌論文を収録している。

#### 経済政策思想史

一方，アカデミックな経済学説研究と並んで，時々の政府の経済政策思想や，経済ジャーナリズムや資本家のいわゆる企業家精神 (entrepreneurship) の思想史的研究は日本の近代資本主義社会発展を，経済活動の主体性の面から取り上げるもので，最近よい研究が少しずつでてきた。

長 幸男：日本経済思想史研究，未来社 昭和38

これはブルジョア・デモクラシーの発展と財政金融政策を歴史的に跡づけたユニークな研究である。

#### 目次

第1章 福沢諭吉の「通貨論」

第2章 大隈重信の紙幣対策——その矛盾と殖産興業との関連について——

第3～4章 井上準之助の金解禁論(1～2)

第5章 高橋是清と危機＝転換期の財政政策

第6章 日本資本主義におけるリベラリズムの再評価——石橋湛山論

遠藤湘吉；加藤俊彦；高橋 誠：日本の大蔵大臣，日本評論社 昭和39

ここで取り上げられている人物は由利公正，大隈重信，松方正義，阪谷芳郎，山本達雄，若槻礼次郎，浜口雄幸，井上準之助

高橋是清，池田成彬，石橋湛山である。

吉野俊彦：歴代日本銀行総裁論——日本金融政策史の研究——ダイヤモンド社 昭和32

吉原重俊，富田鉄之助，川田小一郎，岩崎弥之助，山本達雄，松本臣善，高橋是清，三島弥太郎，井上準之助，市来乙彦，土方久徴，深井英五，池田成彬，結城豊太郎，渋沢敬三，新木栄吉，一万田尚登，山際正道を扱う。

土屋喬雄：日本資本主義の経営史的研究，みすず書房 昭和29

明治以降の実業家では渋沢栄一，五代友厚，三野村利左衛門，益田孝，岩崎弥太郎，広瀬幸平をとり上げている。

土屋喬雄：日本の経営者精神，経済往来社 昭和34

#### 目次

第1編 日本の経営者精神

第1章 江戸時代における商人の経営精神

第2章 維新以後における中小企業者と大企業家の経営精神

第2編 道義の実業家列伝

第1章 渋沢栄一

第2章 森村市左衛門

第3章 金原明善

第4章 佐久間貞一

第5章 波多野鶴吉

第6章 道義的事業家の経営理念と新経営者理念

この分野では外国人による研究が最近多い。次の2訳訳書をあげる。

ヒルシュマイヤ(Hirshmeier, J.)；日本における企業者精神の生成，土屋喬雄；由井常彦訳，東洋経済新報社 昭和40

マージナル (Marshall, Byron K.): 日本  
の資本主義とナショナリズム——ビジ  
ネス・ニリートの経営理念——鳥羽欽  
一郎訳, ダイアモンド社 昭和43  
伝田 功: 近代日本経済思想の研究, 未  
来社 昭和37

これは経済史の分野でもテーマとして取  
り上げられる地方の農工業の土着の思想と  
産業発展との関係を追求した注目すべき書  
物である。

#### IV 全集・伝記・年譜・著作目録

経済思想史上、重要と思われる人物をア  
ルファベット順に配列した。年譜と著作目  
録および研究文献目録については、それぞ  
れ〔年〕, 〔著〕, 〔研〕の記号を使用し、ペー  
ジ数を記載した。

有沢広己

東京大学経済学会: 有沢教授選歴記念論  
文集Ⅱ, 世界経済と日本経済, 有斐閣  
昭和31 〔年〕〔著〕 p. 407~422.

天野為之

浅川栄次郎; 西田長寿: 天野為之, 実業  
之日本社〔年〕〔著〕昭和25 p. 272~289.

福田徳三

福田徳三: 経済学全集全6集, 同文館  
大正14~昭和2 〔著〕p. 1~11 福田  
徳三先生の追憶, 中央公論社 昭和35  
〔年〕p. 167~174, 〔著〕p. 175~179.

福沢諭吉

石河幹明: 福沢諭吉伝 全4巻, 岩波書  
店 昭和7

富田正文: 福沢諭吉褒貶, 三田文学出版  
部 昭和17

福沢諭吉全集 全21巻 岩波書店 昭和

33~39 〔年〕p. 484~709; 〔著〕p. 7  
~783.

小泉信三: 福沢諭吉, 岩波書店 昭和  
福沢諭吉関係文献総目録: 史学:  
(5/3), p. 273~308(昭和25)

深井英五

深井英五: 回顧70年, 岩波書店 昭和  
猪俣津南雄

早稲田大学七十五周年記念出版社会科:  
部門編纂委員会編: 近代日本の社会:  
学と早稲田大学, 早稲田大学社会科:  
研究所 昭和32 〔年〕〔著〕 p. 513:  
514.

土方成美

土方成美: 学界春秋記——マルキシズ  
との抗争三十余年——, 中央経済社  
昭和35

土方成美: 事件は遠くになりにつけり,  
経済往来社 昭和40

平野義太郎

平野義太郎論文集 3巻, 日本評論社  
昭和23~23

——: 新著作集 4巻, 理論社 F  
和29

池田成彬

西谷弥兵衛: 池田成彬伝, 東洋書館 F  
和29

今村武雄: 池田成彬伝, 慶応通信社 F  
和37 〔年〕p. 405~416.

井上準之助

井上準之助論叢編纂会編: 井上準之助  
(青木得三), 昭和10 〔年〕p. 887~900

井上準之助論叢編纂会編: 井上準之助  
叢全4巻, 同会 昭和10

石橋湛山

石橋湛山：人生と経済，理想社 昭和17

石橋湛山：湛山回想，毎日新聞社 昭和

26

金井 延

河合榮治郎編：金井 延の生涯と学蹟

昭和14

——：明治思想史の一断面——金井  
延を中心として——，日本評論社 昭  
和16 〔年〕p. 453～465，〔著〕p. 465～  
478.

加藤弘之

田畑 忍：加藤弘之(人物双書 第29卷)

吉川弘文館 昭和34 〔年〕p. 192～  
204，〔著〕p. 205～207.

加藤弘之先生八十歳祝賀会編：加藤弘之  
自叙伝，大正 4

加藤祐一

本庄榮治郎編：政治経済先人を語る 竜  
吟社 昭和17 ——加藤祐一(菅野和  
太郎——，p. 264～287.

河合榮治郎

河合榮治郎伝記と追想，社会思想研究会  
昭和23

河合榮治郎全集 全23巻 社会思想社  
昭和42～

神田孝平

神田乃武：神田孝平略伝，明治43

河上 肇

自叙伝全5巻，岩波書店 昭和27，〔年〕  
第5巻 p. 303～320.

天野敬太郎編：河上 肇博士文献誌，日  
本評論社 昭和31

住谷悦治：河上 肇，吉川弘文館 昭和

37 〔年〕p. 317～338.

河上 肇著作集 全12巻，筑摩書房 昭  
和39～40

末川 博編：河上 肇研究，筑摩書房  
昭和40 天野敬太郎：河上 肇博士  
関係文献目録，p. 343～382.

天野敬太郎編：河上 肇の人間像，図書  
新聞社 昭和43 〔年〕p. 274～282 〔著〕  
p. 283～330.

河津 遼

河津教授還歴祝賀会編：経済学の諸問題  
有斐閣 昭和10 〔著〕p. 3～18

小泉信三

小泉信三博士年譜及著作目録：三田学会  
雑誌 59(11)，p. 157～194 昭和41

小泉信三全集 26巻，文芸春秋社 昭和  
41～

櫛田民蔵

櫛田民蔵全集 全5巻，改造社 昭和10  
年〔年〕第5巻 p. 496～497；〔著〕p.  
498～510.

——：複刻版 全4巻 昭和24

複刻版は第5巻軍事税戦新時経済が未刊  
のため，これに含まれている「著者の略歴  
及び著作目録」を欠いている。

桑田慇蔵

桑田慇蔵遺稿集，桑田一夫 昭和9

前田正名

岡崎儀八郎：鉄鞋の響・前田正名君，団  
々社 明治31

本庄榮治郎：政治経済・先人を語る 竜  
吟社 昭和17～前田正名(吉川秀造)～  
p. 321～357.

今野覧三：前田正名，新潮社 昭和18

田村栄太郎：日本産業の指導者～前田正

- 名の項, 国民図書刊行会 昭和19 p. 458~486.
- 松方正義  
徳富猪一郎: (公爵) 松方正義伝 全2巻 昭和10 [年] p. 1~89.  
近代史懇談会編: 松方正義関係文書目録 昭和29  
藤村 通: 松方正義——日本財政のパイオニア——(日経新書), 日本経済新聞社 昭和41  
中江兆民  
土方和雄: 中江兆民, 東大出版会 昭和33 [年] p. 209~223.  
桑原武夫編: 中江兆民の研究, 岩波書店 昭和41 [年] p. 351~363; [著] p. 335~349.  
中山伊知郎  
一橋論叢: 48(5), (昭和37) [著] p. 172~195.  
中山伊知郎博士還暦記念論文集 経済の安定と進歩, 東洋経済新報社 昭和33 [著] p. 1043~1073.  
西 周  
西 周全集 全3巻, 宗高書房 昭和35~昭和41 (日本評論社刊 昭和20年は第1巻のみ発行)  
鈴木秀勇: 西 周; 一橋論叢 47(4), 昭和37  
野呂栄太郎  
野呂栄太郎著作集 第1~3集, 三一書房 昭和24  
野呂栄太郎: 日本資本主義発達史 (岩波文庫), 昭和29 [年] p. 304~313  
野呂栄太郎全集 上・下巻, 新日本出版社 昭和40~42 [年] 下巻
- 大島貞益  
西田長寿: 大島貞益, 実業之日本社 昭和20 [著] p. 228~233.  
本庄栄治郎編: 政治経済・先人を語る, 竜吟社 昭和17, 大島貞益, p. 358~376.  
大塚金之助  
一橋論叢 本庄栄次郎 36(4), (昭和31) [年] [著] p. 133~158.  
大隈重信  
大隈侯八十五年史編纂会: 大隈侯八十五年史 全3巻 大正15年 [年] III巻 p. 779~891.  
渡辺幾治郎: 大隈重信, 昭和27 [年] p. 395~418.  
早稲田大学社会科学研究所編: 大隈文書 全5巻 昭和33~36  
大内兵衛  
大内兵衛: 経済学50年(上・下), 東大出版会 昭和34  
佐田介石  
田村栄太郎: 日本の産業指導者——佐田介石——, 国民図書刊行会 昭和19 p. 401~418.  
佐田介石: 社会経済論——本庄栄治郎解題——, 日本評論社 昭和16 [著] p. 13~17. [研] p. 92~96.  
吉野作造: 佐田介石著作目録並解題「国家学会雑誌」43(11), 昭和4  
堺 利彦  
堺 利彦全集 全6巻, 中央公論社 昭和8  
向坂逸郎  
九州大学経済学会: 向坂逸郎教授還暦記念論文集 1962, [年] [著]

波沢栄一

小貫彦一郎編：青淵論双，統計資料協会  
昭和8

白石喜太郎：波沢栄一翁，刀江書院 昭  
和8 [年] p. 1~11.

明石照男：青淵波沢栄一，波沢青淵記念  
財団竜門社 昭和29

野依秀市：青淵波沢栄一翁小伝及び年譜  
実業の世界社 昭和35

土屋喬雄：波沢栄一伝（日本財界人物伝  
全集 第1巻），東洋書館 昭和30  
[年] p. 287~294.

波沢青淵記念財団竜門社編：波沢栄一伝  
記資料 58巻別巻5巻 昭和30~42，  
[年] 第57巻 297p.

杉 享二

加地成雄：杉 享二伝，葵書房 昭和35  
田口卯吉

塩島仁吉：鼎軒田口卯吉先生，明治45  
鼎軒田口卯吉全集 全8巻，昭和3~4  
[年] 第8巻 p. 5~17.

高橋是清

上塚 司：高橋是清翁一代記(上下)，昭  
和4~5

席生大作：高橋是清伝，昭和4  
今村武雄：高橋是清，時事通信社 昭和  
33 [年] p. 243~250.

高野岩三郎

高野岩三郎：かっぱの屁，法政大学出版  
局 昭和36

法政大学社会問題研究所通報 95号(昭  
和39) [著] p. 1~36.

大島 清：高野岩三郎伝；岩波書店 昭  
和43 [年] p. 443~475，[著] p. 479~  
497.

田尻稻次郎

田尻先生伝記及遺稿編纂会編：北雷田尻  
先生伝 全2冊，昭和8 [年]下巻，  
p. 1~62.

高田保馬

高田保馬：回想記，昭和13

高田保馬：思郷記，文芸春秋社 昭和16  
経済研究；(17) (昭和35) [年] [著]  
p. 362~382.

東畑精一

東畑精一先生還暦記念論文集，経済発展  
と農業問題，[年] [著] p. 563~606  
岩波書店 昭和34

東畑精一：一農政学徒の記録，酣燈社  
昭和22

津田真道

津田真治：津田真道 昭和15

土屋喬雄

或る経済学徒の回想；経済往来 11(1・  
2・4~11)，(昭和34)

経営論集(明大) 15(2)，[著] p. 287~  
289 (昭和42)

土屋教授還暦記念論文集 資本主義の成  
立と発展 有斐閣 昭和34 [年] [著]  
p. 307~317.

上田貞次郎

上田正一編：上田貞次郎全集第2巻 株  
式会社論 昭和19 第6巻，人口問題  
昭和18 日本評論社

上田貞次郎博士記念論文集編纂委員会：  
経済の歴史と理論，科学主義工業社  
昭和18 [年] p. 1~9.

上田貞次郎：白雲去来 中央公論社 昭  
和15

上田貞次郎日記(上・下)：慶応通信 昭和

40 (大正8～昭和15まで)

宇野弘蔵

社会労働研究；14(4)，〔著〕p. 182～187，  
(昭和43)

鈴木鴻一郎他編：マルクス経済学体系  
(下) (宇野弘蔵先生還暦記念論文集)  
岩波書店 昭和32 〔年〕p. 575～576，  
〔著〕p. 579～586.

鈴木鴻一郎編：マルクス経済学の研究  
下巻，東京大学出版会 昭和43 〔年〕  
〔著〕p. 525～541.

若山儀一

大山敷太郎編：若山儀一全集全2巻 東  
洋経済新報社 昭和15 〔研〕下巻 p.  
1～9.

矢内原忠雄

経友(東京大学経友会)——矢内原忠雄先  
生追悼特集——；(20/21)，p. 1～23，  
(昭和37)

矢内原忠雄全集 全29巻別巻1；岩波書  
店 昭和40～43，第29巻 〔年〕〔著〕  
p. 845～674.

藤田若雄：矢内原忠雄・その信仰と生涯  
教文館 昭和42

南原 繁編：矢内原忠雄——信仰・学問  
・生涯——，岩波書店 昭和43

山崎寛次郎

山崎教授還暦祝賀記念 経済学研究；  
〔著〕第2巻巻末 p. 1～5，日本評論  
社 昭和4

矢野恒太

森田無適：矢野恒太と第一生命，日本評  
論社 昭和13

矢野恒太記念会編：矢野恒太伝 昭和32

V 外国経済学輸入史

幕末以降，わが国の先学は自由主義(古  
典派)経済学，ドイツ歴史学派，マルクス  
学派，限界学派等々，熱心に外国の経済学  
を輸入し，消化して来た。日本の経済学の  
重要な中味は，わが国の資本主義が発展す  
るにつれ直面した諸問題を，時々の輸入経  
済学の理論を借用して解決してきた歴史で  
あるとも云へる。従って外国経済学研究史  
の二次文献は，日本経済学史研究上おとす  
ことはできない。

古典派経済学

日本における古典派経済学の輸入状況を  
調査した論文としては，次のような論文が  
ある。

杉原四郎：古典派経済学と近代日本——

わが国への古典派導入前史を中心とし  
て——，経済論集(関大)13(4/5/6)，  
p. 391～411 (昭和38)

杉原四郎：河上 肇と古典派経済学——

『近世経済思想史論』を中心として一  
，経済論集(関大)12(1)，p. 1～15  
(昭和37)

A. スミス

日本におけるスミス研究文献目録には次  
の2書がある。

Keitaro Amano: *Bibliography of the  
classical economics. Pt. 1 Adam Smith  
& Pt. II Malthus.* Tokyo. 1961. 206p.  
(The Science Council of Japan.  
Division of Economics, Commerce &  
Business Administration. Economic  
Series No. 27)

アダム・スミスの会編：本邦アダム・ス  
ミス文献——目録および解題——，弘  
文堂 昭和30

後者は、明治2年から昭和27年迄の文献を収め、主要著作には解説がほどこしてある。

この書物の書評および補遺については次の論文を見よ。

杉原四郎：わが国のスミス研究史に関する覚え書——『本邦アダム・スミス文献』読後感——；経済論集(関大)6(4), p. 277~295 (昭和31)

日本におけるスミス論文の概観を知るには、次の書物が便利である。

アダム・スミスの会：アダム・スミスの味、大河内一男編、東京大学出版会 昭和40

とくにこのうちの次の論文を見よ。

大河内一男；田添京二：日本におけるアダム・スミス 研究の諸段階, p. 65~110.

水田 洋：アダム・スミス研究入門、未來社 昭和29

——：改訂版 アダム・スミス研究 昭和43

とくに補論二の第一章 日本におけるスミス研究 (p. 333~392) と巻末のアダム・スミス書誌。

なお、東大経済学部所蔵のスミス文庫については、この雑誌の杉原教授の紹介にゆずる。

#### T. R. マルサス

日本におけるマルサス文献目録のもっとも包括的なものは上記、天野氏の古典経済学文献目録第1巻の後半に収められたマルサス文献目録である。

日本におけるマルサス研究史に関する図書および論文としては、次のようなものがある。

吉田秀夫：日本人人口論の史的研究、河出書房 昭和19

第1章 人口理論の移入 第1節 マルサス説の導入 第2節 マルサス説の批判  
市原亮二：わが国のマルサス研究史——トーマス・ロバート・マルサス文献目録に寄せて——；経済論集(関大)7(4), p. 62~97 (昭和32)

この論文は、天野氏の上記マルサス文献目録が最初「経済論集」に1957年発表されたのを機会に市原氏が、それ以前のマルサス研究を批判的に検討されたもので、天野氏以前の日本におけるマルサス研究および人口理論研究に関する文献目録の紹介がある。また日本人人口論史については、さらにこの稿の概説書の項目にあげた市原氏の日本社会政策学派に関する諸論文も参照されたい。

#### D. リカード

リカードにかんする、もっとも完全な文献目録は、次の天野氏のものである。

Keitaro Amano: *Bibliography of the classical economics. Vol. 2 pt. 3 David Ricardo*. Tokyo, 1962. p. 207~315. (The Science Council of Japan. Division of Economics, Commerce & Business Administration. Economic Series. No. 30)

日本におけるリカード研究史は、次の真実氏の二論文がもっともくわしい。

真実一男：明治および大正前期におけるリカード導入史；経済学年報(大阪市大) (16) p. 63~168. (昭和37)

真実一男：大正後期より戦前までのリカード導入史；経済学年報(大阪市大) (22), p. 1~61 (昭和40)

J. S. ミル

ミルの文献目録としては、天野氏と杉原氏のものがある。

Keitaro Amano : *Bibliography of the classical economics. Vol. 3, pt. 4 John Stuart Mill*. Tokyo, 1964. p.317~466. (The Science Council of Japan, Division of Economics, Commerce & Business Administration Economic Series. No. 31)

杉原四郎：戦後のわが国における J. S.

ミル文献について (上・下)；経済論集 (関大) 3(4), p. 82~100；4(2), p. 103~121 (昭和29)

堀 経夫：明治初期の思想に及ぼした J. S. ミルの影響 堀 経夫編：ミル研究, 未来社 昭和35 p. 175~202.

ミル研究史としては,

杉原四郎：ジョン・ステュアート・ミルと近代日本——生誕百五十年を記念して——, 杉原四郎：ミルとマルサス, ミネルヴァ書房 昭和32 p. 243~259 (改訂版 昭和43)

なお, その他の古典派経済学者の文献目録としては,

Keitaro Amano : *Bibliography of the classical economics. Vol. 4. pt. 5 Other British Economists*. Tokyo, 1964. p. 467~673.

S. Bailey, J. Bentham, T. Chalmers, R. Jones, J. Maitland, M. Longfield, J. R. McCulloch, James Mill, N. S. Senior, D. Stewart, T. Tooke, R. Torrens, E. G. Wakefield, E. West を収む。

ドイツ歴史学派

ドイツ歴史学派の研究史としては概説書の項であげた書物および, 塚谷, 小林 (漢二), 市原諸氏の論文の他, F. リストに関する小林昇の著書, とくに次の著書を見よ。

小林 昇：フリードリッヒ・リスト論考, 未来社 昭和41

とくに第一部のⅢ, リスト文献とリスト文庫, 第二部のⅥ, リスト研究における東独と日本——『自然的体系』の東独版によせて。

M. ウェーバー

天野敬太郎：日本マックス・ウェーバー書誌 1. 2；経済論集 (関大) 14 (6), p. 101~160；16 (1), p. 97~127, 2月昭和40年；4月, 昭和41

金子栄一：マックス・ウェーバー研究, 創文社 昭和32 文献目録 p. 5~68. 板垣与一：「価値判断論争」文献 “Werturteilsstreit”-Bibliographie —— 一橋論叢 3(1), p. 131~144 (昭和14)

日本におけるウェーバー研究史については, とりあえず次の書物を見よ。

大塚久雄編：マックス・ウェーバー研究；東京大学出版会 昭和40

この書物のとくにこの諸論文を見よ。

内田義彦：日本思想史におけるウェーバー的問題 p. 77~134.

丸山真男：戦前における日本のウェーバー研究 p. 151~167.

住谷一彦：日本におけるウェーバー研究の動向 p. 173~185.

マルクス

マルクスの経済理論輸入史はマルクス経済学史そのものに他ならないから, 関係文

献としては先ずⅢの通史にあげられた書物を見るべきである。ここでは、とくに「資本論」輸入史に焦点をしばって関係文献をあげるとにする。

遊部久蔵：日本における『資本論』研究の歴史；「長谷部 文雄，横山正彦編：資本論研究入門，青木書店 昭和33」p. 258～298.

鈴木鴻一郎：『資本論』渡来以後 1～2，季刊大学 No. 1～2 昭和22

この2論文は、その後、加筆訂正して『「資本論」の『邦訳小史』および『「資本論」邦語文献抄』と改題して次の書物に収録されている。

鈴木鴻一郎：「資本論」と日本，弘文堂 昭和34

——：日本における『資本論』の導入と定着（対談）鈴木鴻一郎；きき手 長坂 聰，鎌倉孝夫；唯物史観(4)，昭和42 p. 156～161.

——：＜資本論＞各国語版解題 日本語版

留間敏造他編：資本論辞典，青木書店 昭和41 p. 719～730.

谷部文雄：資本論隨筆，（青木新書）青木書店 昭和31

夷一男：戦前までの近代経済学導入史；経済学年報28，p. 91～128 (9, 昭和43)

## VI 日本資本主義論争

昭和7年，岩波書店から出版された「日本資本主義講座7巻」に端を発した，いわゆる講座派と労農派の間にかわされた日本資本主義の性格規定をめぐる論争は，多くの派生的論争をまきおこしながら戦後迄続

けられて，日本資本主義研究 そのものにも，マルクス経済学理論発展のためにも大きな貢献を果してきた。この論争をめぐる数多くの文献は，文献目録や展望によって比較的整理されているので便宜上，ここで一かつして扱うことにする。

先ず入門的文献としては次の2論文がよい。

山本弘文：研究案内・日本資本主義発達史；経済セミナー(4，昭和33)

内田稷吉：日本資本主義論争回顧，経済セミナー(4～11，昭和32)

論争の古典的な解説書としては次の書物がある。

内田稷吉：日本資本主義論争，清和書店 昭和12

戦後，新版が出た。

内田稷吉；中野二郎：日本資本主義論争（歴史編）——民主革命の課題をめぐる——，新興出版社 昭和24

——：増補改訂版 昭和27

巻末の文献目録は大正11年から昭和19年迄の図書・論文を収録。

社会経済労働研究所編：日本資本主義論争史，伊藤書店 昭和22 論争関係文献表 p. 233～258.

小山弘健編：日本資本主義論争史（青木文庫）上巻 戦前の論争；下巻 戦後の論争，青木書店 昭和28 2冊 戦前論争の関係文献(1930～45) 上巻 p. 1～18. 戦後論争の関係文献(1945～53) 下巻 p. 1～41.

対馬忠行：日本資本主義論争史論，黄土社 昭和22

社会経済労働研究所：日本民主革命論争

史、伊藤書店 昭和22 論争関係文献  
表 p. 121~128.

有沢広巳編：日本資本主義研究入門，日  
本評論新社 昭和32 全3冊

第3巻巻末に参考文献目録 (p. 1~14)あ  
り。

資本主義論争の戦後における新しい展開  
をとりあげた書物としては、次のようなも  
のがある。

内田稔吉：日本資本主義論争 下巻——  
戦後の中心問題について——，新興出  
版社 昭和24

附録Ⅲ 日本資本主義関係の文献，は前著  
の文献目録に昭和24年迄の図書・論文を追  
加して収録してある。

小山弘健：日本資本主義論争の現段階，  
青木書店 昭和31

巻末に昭和28~31年の論争関係文献を収  
録。

高内俊一：現代日本資本主義論争，三一  
書房 昭和36 文献目録 p. 313~335.

平田清明：日本資本主義分析 都留重  
人；内田義彦；末永隆甫編：経済学入  
門，東京出版 昭和33 p. 405~421.

上田耕一郎：戦後革命論争史 上・下巻  
大月書店 昭和32 2冊

歴史学研究会編：明治維新史研究講座  
第6巻 平凡社 昭和34

全巻が研究サーヴェイであるが，第6巻  
に文献目録を収める。資本主義発達史論争  
編p. 136~140.

昭和33年迄の論文を収録。

日本資本主義論争は多くの派生的論争を  
生んだ。その代表的なものについての若干  
の文献案内を次にあげよう。

#### 地代論争

小島恒久；山田勝次郎：地代論争 社会  
主義講座 7 河出書房 昭和31 p. 156  
~217.

これは昭和3年~7年頃に行なわれた，  
地代論争を歴史的にたどったものである。

都留大治郎：差額地代 (I・II) をめぐ  
る研究と論争； 資本論講座 第6巻  
青木書店 昭和39 p. 91~157.

平田清明：地代論争の問題点； 講座・  
資本論の解明 第5分冊，理論社 昭  
和27 p. 140~173.

巻末に文献目録がある (p. 217~218)。

守屋典郎：日本のマルクス主義理論の形  
成と発展，青木書店 昭和42 第4節  
地代論争 p. 135~140.

#### 価値論争，

鈴木鴻一郎：価値論々争，青木書店 昭  
和34

杉本榮一，柳田民蔵，川口武彦，久留間  
敏造の各氏のマルクス価値論解釈の検討を  
行なっている。

遊部久蔵：価値論研究史；日本に於ける  
経済学の百年 (上巻)，昭和34 p. 463  
~576.

河上肇，柳田民蔵，宇野弘蔵氏を取り上  
げている。

本間要一郎：労働価値説をめぐる批判と  
反批判；現代マルクス主義Ⅱ 大月書  
店 昭和33 p. 203~248.

#### VII 大学学部史

日本経済学史研究の一つの側面資料とし  
てわが国における国公立大学の経済学部  
の歴史及び大学図書館の歴史がある。その

うち大学図書館の歴史については本シリーズの総論編に譲る。また、日本に於ける経済学の特殊文庫については、本号に杉原教授の解説があるので、参照いただきたい。

東京帝国大学学術大観—法学部経済学部  
昭和17 p. 467~786.

東京大学経済学部の創設から変遷に至る過程と、経済学各個別分野の発達史を東大教授陣が分担執筆している。

大内兵衛：旧師旧友，岩波書店 昭和23  
———：私の履歴書，黄土社 昭和26

京都帝国大学史，第6章 経済学部  
昭和18 p. 995~1065.

巻末に年譜（大正8年~昭和15年）あり。

一橋大学については雑誌「一橋論叢」第24巻第3巻（昭和25）に次のような座談会が掲載されている。

一橋商学の75年（p. 214~240）

一橋経済学の75年（p. 355~384）

一橋社会学の75年（p. 646~680）

慶応義塾百年史 別巻（大学編），昭和37  
宇治順一郎：経済学部 付高商部 p.  
201~401.

法政大学については次の書物がある。

法政大学：法政大学八十年史，昭和36

渡辺佐平：経済学部 p. 457~484.

村山重忠：社会学部 p. 485~496.

久留間敏造：大原社会問題研究所 p. 651  
~663.

早稲田大学七十五周年記念出版社会科学  
部門編纂委員会編：近代日本の社会科学  
と早稲田大学，早稲田大学社会科学  
研究所 昭和32

久保田明光，平田富太郎，酒枝義旗の諸  
氏が経済学を担当。

（担当 鈴木英夫）

各種雑誌  
合 本  
図書修理

製 本

各大学官庁及会社御用達

日本図書製本株式会社

東京都江戸川区東小岩 1-30-4

電話 東京 (03) 659-5538番(代)